

第1回 名寄市立小中学校のあり方検討委員会 会議録要旨

日 時：令和8年6月9日（火）18：30 開会

場 所：名寄市役所 名寄庁舎4階大会議室

出席者：尾崎委員、黒嶋委員、高橋委員、稲本委員、草薙委員、久保委員、今野委員、谷口委員、
飯村委員、合掌委員、金澤委員（11名）

事務局：岸教育長、伊藤部長、若林課長、伊野主査、齋藤主事（5名）

資 料：資料1～3のとおり

※資料3には、個別の学校状況等の検討過程における内部資料が含まれるため、ホームページでの
公表は行いません。

1 開会

○若林課長より開会の挨拶を行った。

2 委嘱状交付

○岸教育長より委嘱状の交付を行った。

3 教育長挨拶

○岸教育長より挨拶を行った。

4 委員及び事務局職員紹介

○委員及び事務局が自己紹介を行った。

5 委員長・職務代理者の選任

委員長 今野委員

職務代理者 谷口委員

6 委員長就任挨拶

○今野委員長より挨拶を行った。

7 諮問

○岸教育長より諮問を行った。

8 議事

（1）説明事項

①検討委員会の概要（趣旨、検討事項等）……………（資料1）

○事務局より資料に沿って、学校の役割の確認、検討事項について説明を行った。

②今後の検討スケジュールについて……………（資料2）

○事務局より資料に沿って、今後の想定スケジュールについて説明を行った。

③名寄市立小中学校の現状と課題……………（資料3）

○事務局より資料に沿って、学校の適正規模・適正配置に関する国の動向、名寄市立学校の現状、児童生徒数の将来推計、教育委員会の取組について説明を行った。

（2）質疑応答

○委員：資料3から、児童生徒数の将来推計は、通学区域内のみを対象としているのか。

○事務局：お見込みのとおり。特認校でも、通学区域外の児童数は含めていない。

○委員：中名寄小学校は、現在、15人の児童が在籍しており、うち、通学区域外が12名いる。

令和14年度の推計が7人のため、通学区域外の児童数が現在と同程度とすると、合わせて、19人前後になる可能性がある。

（3）意見交換・フリーディスカッション「各学校規模の魅力と課題について」

○A・Bグループに分かれて、意見交換を行った。

【Aグループ】

●「望ましい教育環境について」

- ・教育の場を地域で支える環境
- ・友達がいて、学校に行くことを楽しめる環境
- ・名寄で学ぶ意義を子どもたちに伝えられる環境
- ・子ども一人ひとりが安心できる環境
- ・各学校がメリット（特色）を生かし、自分に合う学校を子ども自身が選択できる環境

●「学校規模ごとの良さ・課題」

- ・小規模校以下の学校では、子ども一人ひとりへの支援が手厚くなるメリットがある
- ・極小規模校では学校の特色を出しやすい（地域との交流を盛んにするなど）
- ・クラスが一つしかない学校だと、コミュニティが固定化され逃げ場がない

【Bグループ】

●「望ましい教育環境について」

- ・名寄市内で幼稚園・保育園等から、小学校、中学校、高校、大学まで連携して育てられる環境
- ・学区分けをせず、子どもが自由に学校を選択できる環境
- ・子どもたちが社会へ参画できる環境

●「学校規模ごとの良さ・課題」

- ・普通規模校では校内で多様な人間関係を作りやすいが、地域とのつながりが薄くなる。
- ・小規模校以下では学年を超えたつながりが強く、農業体験など地域とつながりを深める機会も多い。
- ・極小規模校では、子ども一人ひとりへの特性に応じた個別指導が可能であり、運動会なども地域参画型の行事を実施できる。

9 その他

(1) 第2回 検討委員会 開催日時

令和8年7月30日(木) 18:30～ 名寄市役所 名寄庁舎4階大会議室

10 閉会

○今野委員長より、閉会の挨拶を行った。

20時12分閉会